

## 海外提携校留学に関するよくある質問

海外提携校留学に関する事項をFAQとして次のようにまとめました。

Q：留学の種類を教えてください。

A：渡航を伴う留学として、期間が約半年から1年の長期留学と、約2週間から6週間（期間はプログラムにより異なる）の短期留学があります。長短期留学とも出発時期は春または夏です。また、オンライン留学を2021年春休み、2021年度、2022年度において提供しました。

Q：長期留学について教えてください。

A：学内選考を経て、約半年または1年間、本学に在籍したまま提携校に留学できます。留学出発時2年生以上（1年生時の春休み出発を含む）の全学科の学生に提供しています。（バレンシア大学を除く。バレンシア大学はディズニーワールドでのインターシップを中心としたプログラムであり、TOEIC600点以上が応募条件等他の派遣先と異なった要件および選考が課せられており、グローバル・スタディーズ学科の学生のみ参加できます。）

英語圏への派遣留学と東アジア圏への交換留学があります。

### ・英語圏への派遣留学

→主に語学センターで英語を学ぶ。派遣先での語学の要件を満たした場合に学部の授業が受講できる派遣先もあります。交換留学ではないので、派遣先での当該授業料の負担が必要です。

### ・東アジア圏への交換留学

→語学センターで語学を学ぶ、または学部での授業を受講する。双方向での留学協定に基づいて交換留学生として派遣されるため、課せられている授業における派遣先での授業料は発生しません。

なお、2019年度から2023年度まで年度ごとに長期留学した学生を対象としたアンケートの集計結果と、学生による留学関連情報・最終報告書を本ウェブページに別途アップロードしています。

Q：短期留学について教えてください。

A：夏休みや春休みの期間に提携校で開講される本学で指定したプログラムが受講できます。留学出発時2年生以上（1年生時の春休み出発を含む）の全学科の学生が対象です。英語圏と東アジア圏への留学ともに各プログラム参加費の負担が必要です。

Q: オンライン留学について教えてください。

A: 通常の現地への長短期留学と同様に本学に在籍したまま、提携校で開講される本学で指定したプログラムの受講ができ、単位付与が行われました。現在オンライン留学は提供していません。

Q: 留学で取得した単位は本学で単位認定されますか？

A: 留学中に取得した単位は、受講科目・授業時間数等をもとに、所属学科での審議を経て卒業に必要な単位(学科によって追加される科目の区分が異なります)に一括認定されます。長期留学は上限42単位までの認定です。単位が認定されている科目はその単位数で、語学センターでの科目は授業時間30時間につき2単位で単位計算されます。

Q: 長期留学の場合、留学期間も入れて4年での卒業は可能でしょうか？

A: 長期留学をする学期の本学での在籍区分は「在籍留学」になり、留学期間も修了年限に算入されます。グローバル・スタディーズ学科の学生は、4年での卒業が可能です。学科として海外留学を推奨していることもあり、提携校への長期留学を経て留学期間も含め4年の在学期間で卒業した方も多いです。(ただし、教職等の取得希望資格との兼ね合いは必ず各自で確認してください。)他学科の学生は、長期留学期間を含めて4年での卒業は非常に難しいと捉えてください。留学終了後に留学で不在だった学期分の必要な授業を卒業までに履修することになります。よって、留学する学期の在籍区分を「在籍留学」ではなく本人の申し出により「休学」に選択することもできます。この場合、留学のため休学した学期は、修了年限に算入されず本学の学納金の納付の対象となりません。ただし、休学の場合に課せられる本学の在籍料の納入は必要です。

Q: 1年間の長期留学にはどのくらいお金がかかりますか？

A: 英語圏(バレンシア大学は除く)・東アジア圏ともに、本学への学納金・航空券代等の現地までの往復交通費・学生ビザ申請料・学研災留学保険料(約15万円)・留学生危機管理サービス OSSMA 会費(約3万円)を除いて、以下の概算が目安となります。あくまで最低限の見積もりです。例えば、滞在先からキャンパスまでのバス定期の購入費が別途かかる場合もありますし、寮費とは別に光熱費の実費が設定されていたり、ホームステイ料金に含まれる食事の回数は留学先により異なっております。また、円安傾向が進行することもあります。よって、この金額の枠の中で当該費用が必ず収まることを保証するものではありません。

英語圏への派遣留学(留学先に納付が必要な授業料・登録料・保険料等、ホームステイ/寮費・最低限の食費)

→

アメリカ 約520万円(ベネディクティン大学においては9か月の場合)

カナダ・オーストラリア 約390万円、イギリス 約360万円(9か月の場合)

フィリピン：約120万円

東アジア圏への交換留学（留学先に納付が必要な登録料・保険料等、寮費、最低限の食費）  
→中国：約50万円、韓国：約70万円、台湾：約80万円

Q：留学するための奨学金や経済支援はありますか？

A：

長期留学→

<本学独自の支援>

英語圏への派遣留学：派遣先大学での当該授業料の負担が必要なことから、経済支援として本学の規定により一括での留学奨学金（フィリピン・セントポール大学、アメリカ・バレンシア大学：15万円、それ以外：30万円）を支給しています。留学期間が半年でも1年でも金額は同じです。東アジア圏への交換留学は本支給の対象外です。

<学外からの支援>

給付型奨学金：

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の『2025年度海外留学支援制度（協定派遣）』に本学の英語圏ならびに東アジア圏への長期留学プログラムが採択されました（英語圏は2019年度、東アジア圏は2020年度から連続での採択）。この制度は、日本の大学等が海外の大学等との協定に基づき実施する留学プログラムに参加する学生を支援するもので、本学での選考を経て要件を満たす長期留学に出発する学生へ月額8万円から11万円（留学先により異なる）の給付型の奨学金がJASSOから支給されます。加えて、一定の派遣期間を満たす学生は1万円の渡航支援金も支給されます。2025年度もプログラムの採択が決まり、英語圏（バレンシア大学は除く）と東アジア圏提携校長期留学者合計14人の採用枠を得ました。この奨学金と渡航支援金の返済は不要です。次年度以降も、本学では引き続きJASSOへプログラム申請を行い、経済的サポートも行っていきます。このJASSOの留学支援制度による給付型奨学金への応募は、学内で開催する留学説明会で内容を周知します。

貸与型奨学金：

要件を満たす長期留学者は、JASSOによる「留学時特別増額貸与奨学金」へ、申請することが可能です。貸与一種/二種に採用されている留学期間が3ヶ月以上の方で、日本政策金融公庫の「国の教育ローン」を申込み低所得等を理由に利用できなかった世帯等の学生が対象です。本学の学生課が担当部署になります。また、地方自治体によっては、長期留学をする学生を対象に、大学卒業後にその地域に就業・起業すること等を条件に返還免除が可能な貸与の奨学金への応募者募集を行う場合もあります。こちらは直接応募になります。本センター宛てに募集の周知依頼がありましたら、JASSOの留学のための貸与型奨学金の紹介

と併せて、留学説明会で案内を周知します。

短期留学→

＜本学独自の支援＞

グローバル・スタディーズ学科の学生で、まだ学科で授業として開講している海外研修における一人一回までの補助（上限 10 万円）を受けていない方は、この短期留学参加にあたり補助を受けることができます。他学科の学生については、補助はありません。

＜学外からの支援＞

本センターで把握している応募可能な本学提携校短期留学のための奨学金・経済支援はありません。

Q：留学への申し込み書はいつまでに出すのでしょうか？ 様式をもらえますか？

A：まずは学内で開催する留学説明会に出席してください。学内用の留学願書の様式と資料を配付します。留学説明会開催の案内は、日程が決まり次第学内掲示等で周知します。長短期留学の場合は概ね以下のスケジュールですが、状況判断の都合から適宜変更することもあります

春休み・前期出発者→夏休み前に開催する留学説明会に出席すること。

願書提出は 9 月初旬頃

夏休み・後期出発者→春休み前に開催する留学説明会に出席すること。

願書提出は 3 月初旬頃

Q：過去の留学説明会の配付資料は見れますか？

A：最新のものから順に以下のとおり本ウェブページに別途アップロードしています。

・2025 年度夏休み短期留学ならびに後期からの長期留学出発者向け

→2025 年 1 月 22 日に開催した留学説明会の配付資料です。募集対象となる提携校の情報や留学資格、各奨学金の紹介（説明会当時に提示した内容ですので、最新の情報とは限りません。）も含まれています。

・2025 年度前期からの長期留学出発者向け

→2024 年 7 月 22 日に開催した留学説明会の配付資料です。募集対象となる提携校の情報や留学資格、各奨学金の紹介（説明会当時に提示した内容ですので、最新の情報とは限りません。）も含まれています。

Q：留学希望者を対象とする学内選考はどんなものですか？

A：短期留学は留学願書の書類にて、長期留学者は書類に加えて学科での面接の両方で選考します。志望動機や希望留学先への意欲、これまでの本学の授業履修状況や必要となる語学力を総合的に判断して、派遣するに相応しいかどうかを判断します。

Q：希望の留学先は決めましたが、学内用留学願書の提出以外に今のうち心がけておくべきことは何でしょうか？

A：学業に励んで、本学の授業において良い成績を収めるようにしてください。特に奨学金の申請希望がある方は、応募の機会を得た際に本学の成績に問題が生じていないよう勉学に勤んでください。また、留学先の言語の学習を継続して行い、留学前にも語学能力試験を受験しスコアを取得して、現時点での語学力を客観的に確認してください。一定の語学能力試験のスコア相当を出願希望者に課している派遣先もあります。